

ループが、同じ波長域で、セロ・トロロの4m反射望遠鏡のリッチ・クレチェン焦点に特殊な透過グレーチングをつけ、大小マゼラン星雲の比較的広い領域に亘ってM型巨星と炭素星のサーベイを行ない、同じ方法による「パーデの窓」と呼ばれる星間吸収の非常に小さい銀河系の中心方向の観測との比較をした(Nature, 271, 638, 1978)。これらの観測は、大小マゼラン星雲と我々の銀河系を完全に反対側まで見通した最初のものである。それによると、銀河系の中心領域には炭素星はほとんどないが、小マゼラン星雲では、逆に、M型巨星はほとんどなく、炭素星が非常に多い。大マゼラン星雲ではその中間である。特に、小マゼラン星雲では銀河系の中心領域に多いと言われる比較的温度の低いM型巨星が全くない。又、大小マゼラン星雲では中心から外に向けて、炭素星の数が減少する傾向が見られるが、これは我々の銀河系とは逆の傾向である。

太陽近傍のM型巨星と炭素星の研究から、それらは大気に含まれる炭素と酸素の比が少し異なるだけで、様々な似かよった性質を持っている。M型巨星と大部分の炭素星は、HR図上でほぼ同じ位置を占め、共に数十億年の年齢を持ち、銀河系の円盤種族を構成しているが、炭素星の進化、特にM型巨星との関係はよくわかっていない。それゆえ、これらの星の進化を明らかにすることによって、銀河によって大きく異なる分布の様子、炭素星とM型巨星の数の比の違いを説明することができれば、銀河の成因や進化についての興味ある情報が得られるかもしれない。又、ブロンコのグループの方法を用いれば、我々の銀河系の近くにある矮銀河での観測も可能である。その観測からどのような分布の様子が得られるかも興味あるところである。(市川 隆)

掲 示 板

天文教育懇談会が5月7日(月)午後5時~8時まで本郷会館(813-4408)で「天文教育懇談会の今後のあり方、その他」と題して開かれます。

会費 3,000 円。お申し込み、お問い合わせは平瀬志富(03-815-5958)または北村静一(078-691-7817)まで。

天文学将来計画検討会のお知らせ

学会会期中9日および11日午後6時より、東大天文学教室において天文学将来計画の検討会を公開で行います。翌12日(土)も公開の検討会を続行しますので、奮ってご参加下さい。出席希望者は予めご連絡いただければ幸いです。

天文学研究連絡委員会

将来計画小委員会

連絡係 小平桂一

Tel. (03) 812-2111

内線 4341

計 報

本会元理事・元京都大学助教授・元京都工芸繊維大学教授藤波重次氏は、去る4月6日午後10時に64才で逝去されました。

謹んで御冥福をお祈りすると共に会員諸氏にお知らせ致します。

1979年2月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	14,	100	6	11,	121	11	11,	149	16	12,	134	21	16,	179	26	—,	—
2	10,	89	7	10,	92	12	12,	106	17	13,	163	22	12,	160	27	—,	—
3	12,	112	8	13,	155	13	15,	114	18	15,	124	23	—,	—	28	9,	59
4	11,	117	9	13,	159	14	12,	85	19	14,	141	24	—,	—	*	*	*
5	—,	—	10	—,	—	15	16,	133	20	15,	197	25	9,	38	*	*	*

(相対数月平均値: 179.6)

昭和54年4月20日	発行人	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所	〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町251	啓文堂 松本印刷
定価 300 円	発行所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
		電話 三鷹 31局 (0422-31) 1359	振替口座 東京 6-1 3 5 9 2